歌うガイコツ

むかしむかし、ある国の大きな森に、それはらんぼうなイノシシが住んでいました。

そこで王さまは、イノシシをたおした者とお姫さまを結婚させるとおふれを出したのです。

それを聞いて、まずしい二人の兄弟が名乗り出ました。

心の優しい弟は東から、なまけ者のお兄さんは西から森へ入って行きました。

弟が森をすすんでいくと、黒いヤリを持った小人が出てきました

「さあ、これを心の優しいおまえにやろう。もって行きなさい」

弟が小人にお礼を言って歩き出すと、間もなくイノシシがあらわれました。

イノシシは自分からヤリに向かって飛びかかり、そのヤリで心臓(しんぞう)をひと突きすると、あっけなく死んでしまいました。

さて、西から森に入っていったお兄さんは、途中のお店でお酒を飲んでいました。

ところが、イノシシをかついで帰ってきた弟を見てくやしがり、イノシシをよこどりすることを考えました。

夜になるまで弟にお酒を飲ませ、暗い橋の上でなぐって殺してしまいました。

お兄さんは弟を橋の下にうめると、イノシシを取って、王さまのところへ持って帰りました。

そして自分がイノシシを倒したとうそをついて、お姫さまと結婚したのです。

何年か過ぎたある時、ヒツジ飼いがあの橋を渡りました。

そして、下の河原の砂の中から雪のように白い骨を見つけると、それをひろって笛(ふえ)を作りました。

ところが、その笛を吹こうとすると、笛はひとりでに歌い始めました。

♪兄がわたしを殺し
♪橋の下に埋めました
♪イノシシをよこどりして
♪お姫さまと結婚しました

不思議に思ったヒツジ飼いは、骨を王さまのところへ持っていきました。

すると骨は、またさっきの歌を歌い、王さまは本当のことを知りました。

悪いお兄さんはすぐに殺され、そして弟の骨は全部橋の下からほり出されて、美しい墓石の下にほうむられました。

おふれ - bekendtgørelse
まずしい - fattig
すすむ - gå frem, rykke
ヤリ - spyd
間もなく - straks efter
飛びかかる - springe på
ひと突きする - et stød
あっけなく - hurtigt
かつぐ- bære over skuldreren
よこどりする - snuppe
なぐる - slå
ひつ飼い - hyrde
河原 - flodleje
砂 - sand
ひとりでに - automatisk
墓石 - gravsten
ほうむる - begrave

http://hukumusume.com/douwa/betu/world/11/03.htm

EKSTRA

イノシシ

イノシシとは、体は太く、首は短く、口が突き出しているのが特徴で、国産のものは全長が約1.2㍍で、ヨーロッパ中南部からアジア東部の山野に生息します。
　背面に黒褐色の剛毛があり、子どものイノシシは「ウリ坊」といって、親しまれています。
　ブタの原種であるため、味はブタに似ていますが、食べると体が温まることから、冬の食べ物として、むかしから食されています。

小人

　小人とは、伝説・物語などに出てくる体の小さい想像上の人間で、白雪姫に登場することで有名です。
　また、「ロードオブザリング(指輪物語)」に登場するドワーフも、小人の仲間です。
　昔話にはよく登場するキャラクターで、そのイメージはずんぐりむっくりのおじさん(おじいさん)で、気に入った人間にはいいことをしてくれますが、小人にイジワルをしたり嫌われたりすると、とんでもないことをする存在です。

　西洋だけでなく東洋の昔話にもよく登場します。